

まえがき

前号の留学生センター年報は2005年版ですので、今号は5年ぶりの刊行となります。この間、大学教育の変化のなかで、留学生センターの果たす役割も変わりつつあります。従来の留学生を対象とする日本語教育ならびに日本理解教育に加えて、留学生センターが大学の国際化に積極的に貢献することが求められていると考えられます。

本留学生センターとしても、留学生を日本人学生と同じ東京学芸大学というコミュニティの一員として位置づけ、日本人学生と留学生がお互いを理解し、協働して活動できる環境を整えることに取り組んでまいりました。具体的には、日本語日本文化研修生プログラムや短期プログラムでの日本人学生との共同授業や協働プロジェクト、あるいは「国際交流カフェ」や、国際交流合宿、昼休みを利用して日本語、中国語、韓国語で交流するプログラムなど、授業および課外活動において留学生と日本人学生との交流プログラムを実施しており、着実に成果を上げつつあります。

このほか、中心的業務である留学生に対する日本語教育と日本理解教育の充実、本留学生センターが関わる日本語日本文化研修プログラム、英語を教授用語とする短期留学プログラム、海外からの現職教員を受け入れる教員研修プログラムの改善に継続的に取り組んでおります。さらに、留学生と附属学校等の児童生徒や教員との交流も活発に行っております。

他方、帰国留学生ネットワークの構築など、さらなる取り組みが必要な事業も残されております。

本年報をご覧いただき、この数年間の東京学芸大学留学生センターの取り組みについて、ご理解いただければ幸いです。

今後とも、東京学芸大学留学生センターの活動に対するご理解とご支援をお願いいたします。

東京学芸大学・留学生センター長

渋谷 英章